

学 校 名	世田谷区立東玉川小学校
所 在 地	東京都世田谷区奥沢 1 - 1 - 1
電話番号	0 3 - 3 7 2 0 - 4 2 1 1

## 1. 実践発表のテーマ

# 協働と共育の地域運営学校

- 信頼と誇りのもてる学校づくり -

本校は、東京の南西部に位置する世田谷区立の学校ではあるが、校地の三分の二は隣接する大田区内にあり、世田谷区の児童、大田区の児童、目黒区の児童が通学するという地理的条件に起因する特色がある。

東玉川地区・奥沢地区は「まちづくりは自分たちの知恵で」という市民意識の高い地域で、青少年奥沢地区委員会・奥沢まちづくり出張所・地域ボランティアが中核となって「新春奥沢地区まつり」「飯盒炊飯」「奥沢吹奏クラブ」「東玉川地区会館前花壇ボランティア」等の活動に取り組んできた。

また、長年にわたり地域とともに子どもを育てる教育を実践してきた本区では、健全育成・地域防災・教育活動の充実を目的として活動する学校と地域の連携



「奥沢吹奏クラブ」



「東玉川地区会館前花壇ボランティア」

組織としての「学校協議会」、校長の求めに応じて個人の立場で学校運営に関する意見を述べるもので校長の相談役的な立場の「学校評議員」等の組織をつくるとともに、平成17年4月には「世田谷区教育ビジョン」を策定した。

このような地域・学校の背景のもとで、本校は平成17年4月世田谷区教育委員会から地域運営学校の指定を受けることになった。

本フォーラムでは「孫を通わせたい学校」を学校・家庭・地域が一丸となってつくる「協働と共育の地域運営学校」をテーマとして発表する。

## 2. 実践の推進体制

本校の学校運営委員会(本区では、既存「学校協議会」との名称混乱を避けるために「学校運営協議会」ではなく「学校運営委員会」の名称を使用している。)の委員は10名で下表の構成である。

<b>地域住民代表</b> ：青少年委員・元PTA副会長	<b>保護者代表</b> ：PTA会長・前PTA副会長
<b>卒業生代表</b> ：大学生	<b>就学予定者代表</b> ：幼稚園保護者
<b>学識経験者</b> ：大学講師・幼稚園長・弁護士	<b>本校校長</b> (事務局：副校長・主幹)

学校運営委員会では、世田谷区教育委員会の研究奨励校(環境教育)、花づくり推進校、エコスクールモデル校など環境に関する様々な教育課題に取り組む本校の教育課題、日本語特区である本区の教育課題、学校と地域におけるこれまでの活動を組織化し、教育活動への参画を図っていくことを重視することが、「協働と共育の地域運営学校」を具体化する方策になると考えた。

そこで、平成17年度「屋上庭園」「読書活動」「学習支援」「子育て支援」の四つのプロジェクトを立ち上げた。



「学校運営委員会」

本校の**学校運営委員会**は、概ね月に1回の定例会を開催するとともに、校長室に事務局を置き、日常的な活動に取り組みやすい環境をつくっている。

本年度の、大きな特色は、以下に示す「**四つのプロジェクト**」であり、運営委員会と本校に勤務する教員とが、共に考え、行動していることである。



「屋上庭園プロジェクト」

**屋上庭園プロジェクト**は、地区会館前花壇ボランティアに端を発し、平成16年度に第一期屋上緑化プラントが設置された時に発足した、「上緑会」を発展させたプロジェクトである。平成18年度は、児童・保護者・地域住民等100名以上の活動登録がある。概ね、月1回の定例会と、総合的な学習の時間の学習支援にも取り組んでいる。

学校側担当者として、副校長・主幹・関連主任が参加している。



「学習支援プロジェクト」

**学習支援プロジェクト**は、指導方法の工夫・地域の人材を活用した授業について、学校運営委員会として協力・支援することを目的に発足した。

学校側担当者として、主幹・関連主任が参加し、情報交換を行い、同窓会の協力も得て、年間指導計画との関連の中で、人材リストを作成中である。



「読書活動プロジェクト」

**読書活動プロジェクト**は、子どもたちに望ましい読書環境・読書習慣を提供するために発足した。

読書活動推進ボランティア・図書館整理ボランティアなどを中心とし、多数の保護者・地域住民の協力を得て活動している。放課後や夏季休業中の図書室開放にも取り組んでいる。

学校側担当者として、関連主任が参加している。



「子育て支援プロジェクト」

**子育て支援プロジェクト**は、「どの子ども、どの親も幸せになって欲しい。」という願いから、平成16年度より実施してきた「子育てサロン」を、運営委員会プロジェクトとして位置づけたものである。

毎月、第4火曜日(9:45~11:45)を活動日としている。

### 3. 実践の成果と課題

本稿では、成果として下記の2点を記載する。

・地域運営学校として地域と学校をつなぐ様々なことがらを組織化して、地域社会とこれまで以上にスムーズな連携がとれるようになったこと。

・教員が地域との連携をこれまで以上に考えるようになったこと。

地域と学校をつなぐ様々な活動は、大部分が地域運営学校の指定以前から存在する。しかし、地域運営学校の指定を受けたことによって、校務分掌組織との関連性が明確になり、日常の教育活動で組織的・計画的に「地域」を意識する活動を実施するようになった。



「読み聞かせ(区立奥沢図書館)」



「3園交流」

例えば、1年生が地域の幼稚園・保育園児を招いて行う「3園交流」や2年生と図書館部が、地域の公立図書館と連携して行う「読み聞かせ」など、低学年から、地域の中の学校としての取り組みを実施している。

また、四つのプロジェクトに関係する校務分掌の主任級の教員が、学校運営委員会のプロジェクト会議にも出席し、担当運営委員とともに企画を立て、他の教員間との連絡や調整を行うようになってきた。このことは、地域運営学校としての活動が所属教職員のモデルリーダー育成の場としても活用できる可能性を示唆している。

本校では、会議の回数を考慮するため、これまで、学校運営委員会とプロジェクト会議を同時に開催してきた。しかし、今後、会議の回数に配慮する観点から同日開催を継続するにしても、時間を区切って、運営委員会と推進会議(仮称)を分離して開催する必要も多くなるのではないかと考えている。

また、学校運営委員会プロジェクトを固定せずに、特色の明確化や、脆弱な部分を補強するために活用したい。そのためには、学校をとりまく環境について、SWOTなどの手法を用いて客観的に分析するとともに、外部評価を有効活用し中・長期的な視野のもとで、常に再編成していく必要がある。学習支援プロジェクトから発展して小・中学校の連続性を意識した学習や、子育て支援プロジェクトから発展して在学中の家庭学習やしつけなどを含む子育て支援にも取り組んでいきたい。

### 4. 今後の取組

元来、学校は学びの共同体である。子どもの夢、保護者の夢、地域の人々の夢、そして教職員の夢を大きく育てるためには、それぞれに、まず、自分で判断し、責任をもって行動できる自立した個の確立が必要である。地域運営学校には、家庭・地域・学校それぞれが、何をしていくことがいいのか、真摯に学ぶ可能性がある。

真摯に学び合う学びの共同体としての地域運営学校は、地域から信頼され、地域の方々が誇りに思う学校をつくる一形態であると確信している。

世田谷区の地域教育基盤構想に基づき、小中連携や小中一貫教育を視野に入れながら、着実な実践を積み重ねるとともに、外部評価を有効に活用した学校改善や特色ある学校づくりに取り組んでいく。

< \* 本校のホームページ <http://www.setagaya.ed.jp/higa/> もご参照頂ければ幸いです。 >